

一級河川 木津川(指定区間)

平成21年度

第8回

三重県河川整備計画

流域委員会

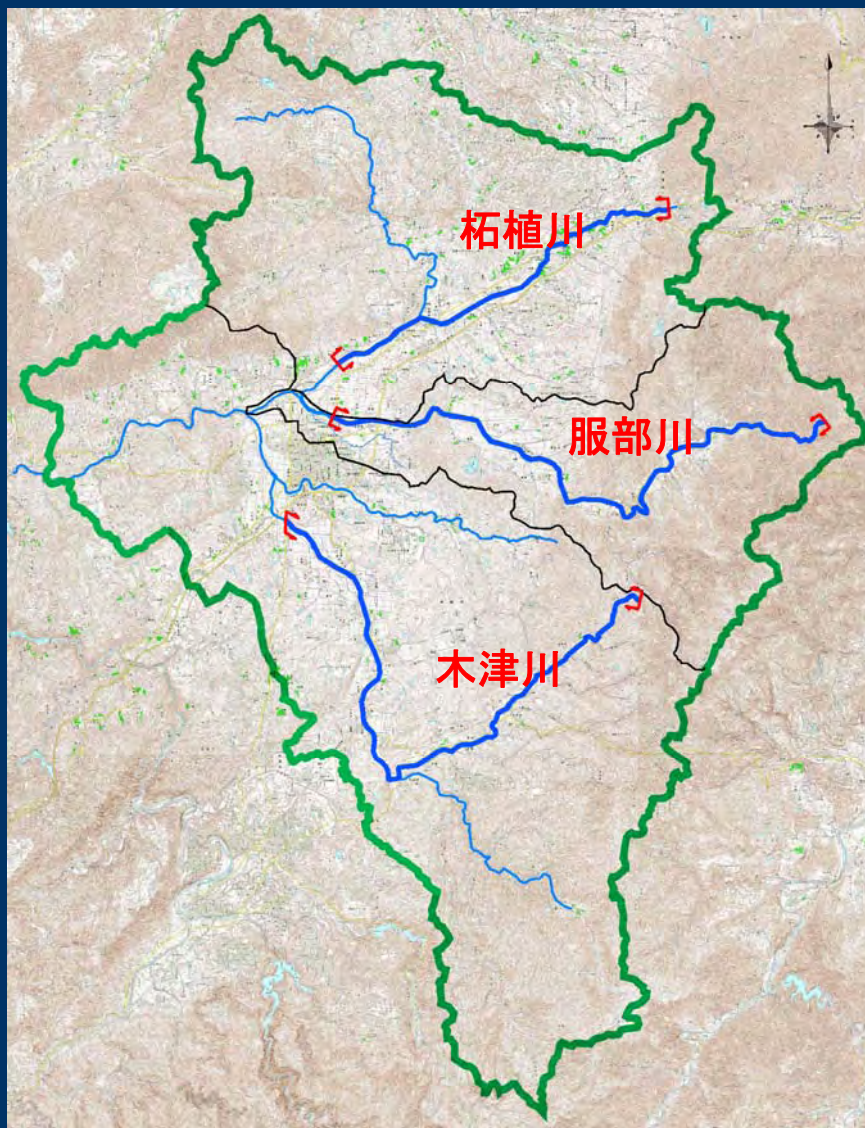
平成22年2月15日

三重県

目次

1. 前回委員会・懇談会でのご意見
2. 流域の現状と課題
3. 河川整備計画（原案）について
4. 今後の進め方

木津川流域位置図



1. 前回委員会・懇談会でのご意見

- 平成21年度第5回流域委員会
- 第2回木津川流域懇談会

第5回流域委員会(平成21年11月16日)

前回流域委員会での質疑応答

	ご意見	県(河川管理者)回答
川上ダムについて	建設中止になるのではないか。このまま計画を進めていくか。	淀川流域全体の治水安全度のバランスや利水面からダム建設が必要と考えており、河川整備基本方針に基づいて河川整備計画を作成する。
生態系について	ヨシ原を必要とするハイイロチュウヒ(重要な鳥類)などの生息状況について確認してほしい。(※)	段階的に工事を進めるなど、施工にも配慮する。
河川改修策について	堰は統廃合できないか 樹木伐採の程度は	統廃合をする計画であり、水利権者との調整を進める。 治水上必要な部分について竹林を中心に最小限の伐採を行う予定。

※ハイイロチュウヒは服部川高畑橋下流で多く見られ、毎年越冬している。地域住民の情報では木津川でも越冬期になると見られるとのこと。

第2回流域懇談会（平成22年1月26日）

前回流域懇談会でのご意見

主な意見

- ・対象洪水の選定理由を説明して欲しい。
- ・水質は、営農の中干し期に悪くなるのではないか。
- ・河川清掃を行っているがゴミの不法投棄が多い。
- ・河川の巡視、日常の管理には地域住民の援助が必要。
- ・キイロヤマトンボ、オオムラサキ、イシガメなど希少動植物に配慮して欲しい。
- ・整備計画の中に超過洪水に対する対応、堤防の質についての配慮も記載して欲しい。

2. 流域の現状と課題 (治水、利水、環境)

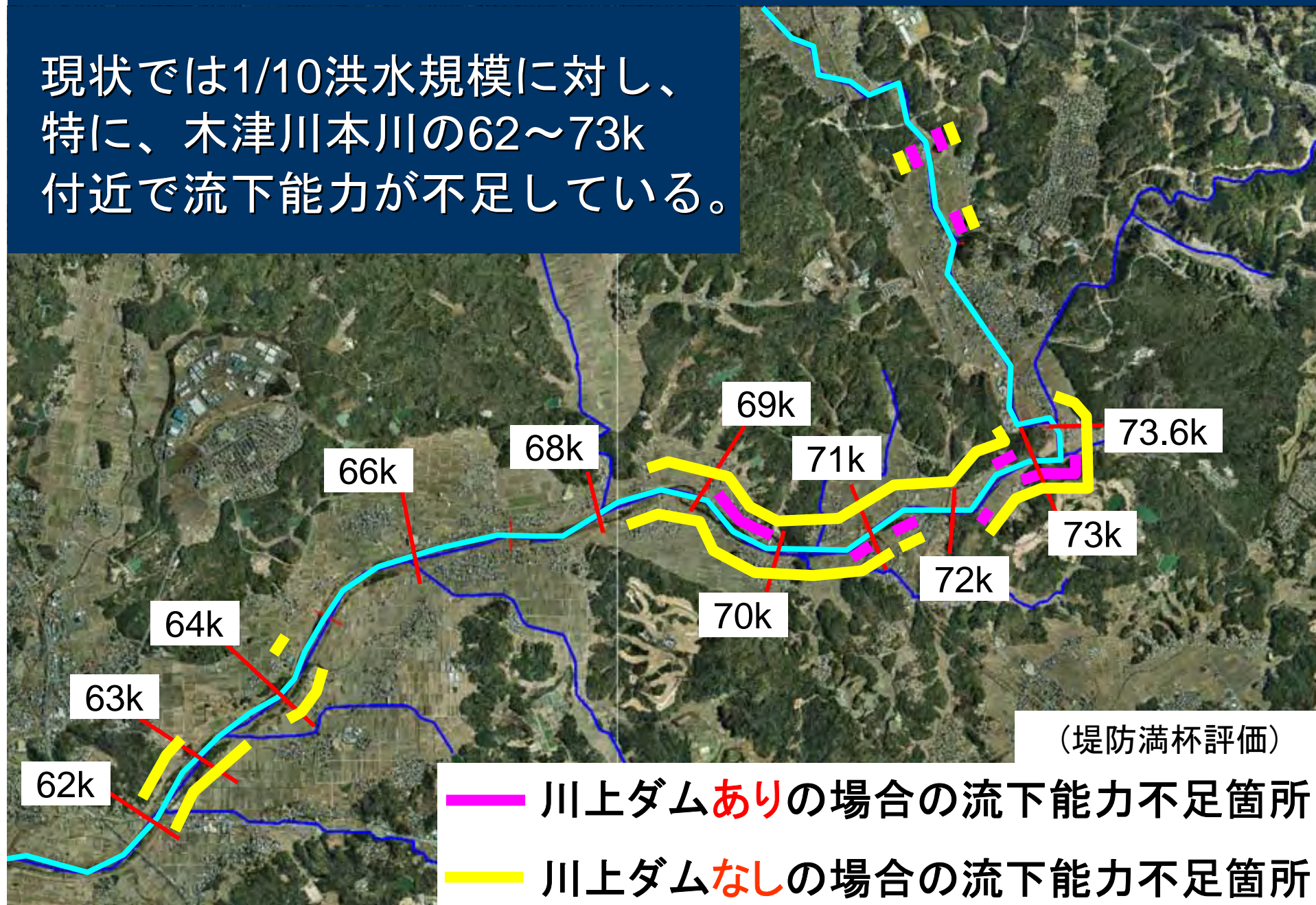
2.1 治水の現状と課題

- 木津川では井堰や橋梁などの流下能力上ネックとなる構造物が多く、堤防高不足箇所からの溢水が近年も頻発しており、早急な改修が望まれている。



1/10洪水規模に対する木津川の流下能力不足箇所

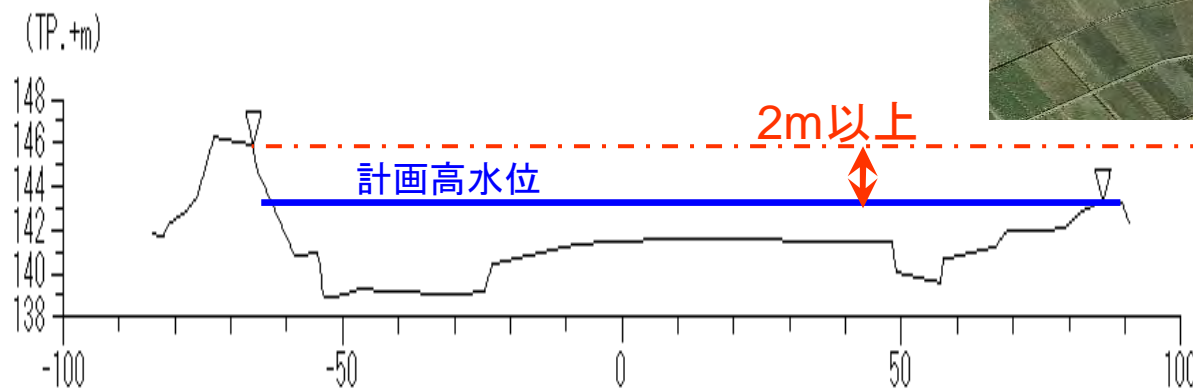
現状では1/10洪水規模に対し、特に、木津川本川の62～73k付近で流下能力が不足している。



2.1 治水の現状と課題

- 服部川、柘植川等の支川では、災害関連事業等による整備が進められ、近年の家屋への浸水被害報告は無い。
- 柘植川下流部は、右岸堤防高が左岸堤防に比べ2m以上低く、洪水時には右岸農地に湛水させており、家屋への浸水被害は生じていない。

柘植川2.6km付近の状況



1/10洪水規模に対する 服部川・柘植川の流下能力不足箇所



2.2 水利用の現状と課題

現 状

農業・水道・工業用などの取水のほか、内水面漁業が行われている。

課 題

水利の大半は農業用の慣行水利権であり、取水量の実測が無く実態が明確でないことから、河川水利の実態把握が望まれる。

近年、アユ等の餌となる藻類の生育環境が悪化する場合が見られ、自然な瀬の保全や水質汚濁等の防止が課題。

2.3 河川空間利用の現状と課題

現 状

河川空間の利用目的は、「散歩」が最も多い。
「魚釣り」や「自然観察」や、運動の場としての利用がみられる。

河川区域内の不法投棄などが多発しており、地域有志による清掃活動が行われている。

平成11年度 木津川流域アンケート調査結果より

課 題

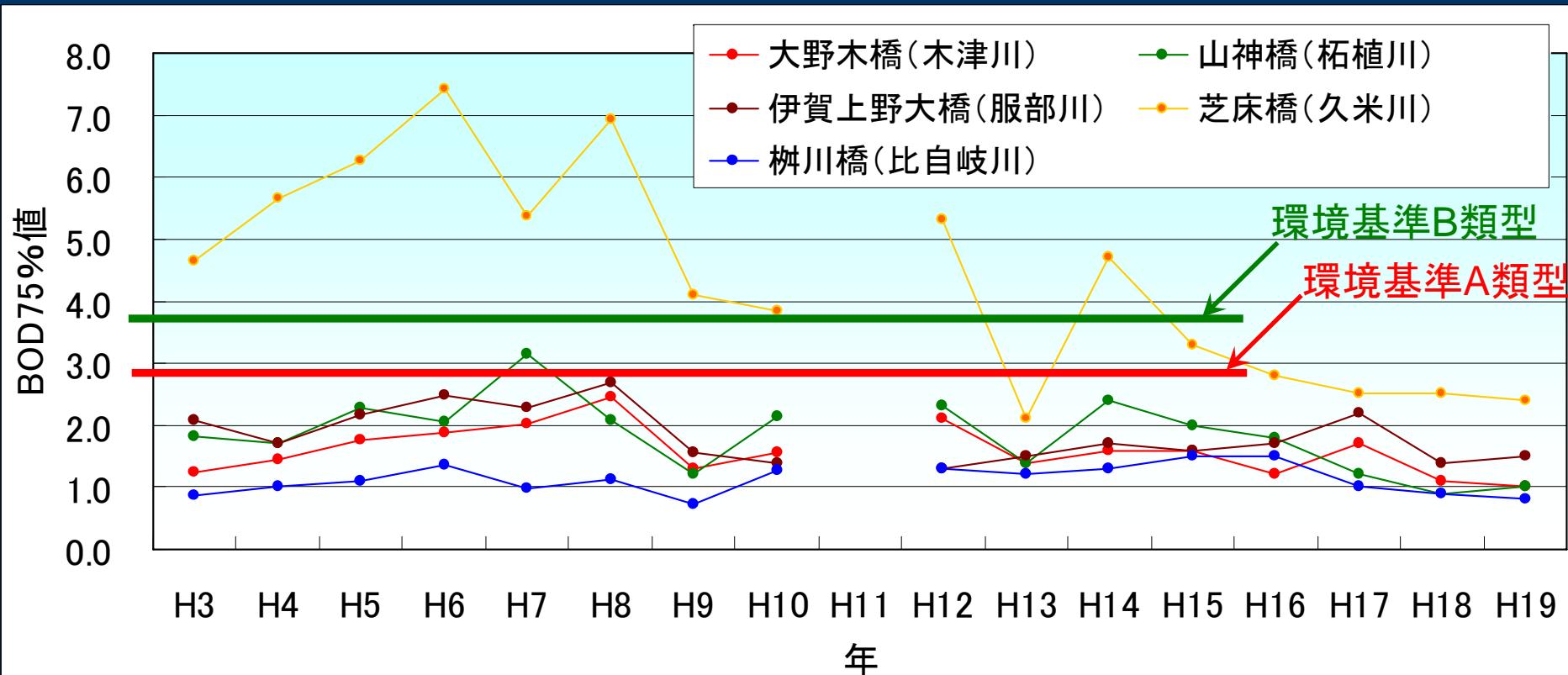
良好な河川空間の利用が可能となるよう、水辺へのアクセスの確保が望まれる。

適切な巡視活動や住民への意識啓発により、不法投棄をなくす対策が望まれる。

2.4 河川環境の現状と課題

(1) 河川水質

水質は木津川、服部川、柘植川と比自岐川でA類型に該当しているものの、久米川が水質環境基準B類型となっている。



2.4 河川環境の現状と課題

(2) 動植物の生息環境

現 状

鳥類等の生息場、繁殖場となる河畔林・河原・ヨシ原が見られる一方で、堰などにより上下流の連続性が十分に確保されていない。

課 題

鳥類等の生息場、繁殖場となる河畔林・河原・ヨシ原の保全、魚類や両生類等の生息場・繁殖場となる瀬・淵の保全、河川における上下流の連続性、支川・水路との連続性、水域と陸域の連続性の確保が望まれる。

2.4 河川環境の現状と課題

(3) 河川景観

現 状

流域には歴史的な景観が多く残され、牧歌的な田園地帯の風景が広がっている。伊賀市では、市固有の良好な景観を維持、整備するため、「伊賀市景観計画」を定めている。

課 題

河川景観が周辺景観と一体的に良好となるものとなるよう保全し、また沿川の建築物等が周辺景観と調和したものとすることが望まれる。

河川整備計画(原案)について

3.1 整備の対象区間について

本河川整備計画の対象区間は、三重県内の木津川及びこれらの支川(名張川を除く)の県管理区間すべてとする。

河川名	区 間		流路延長 (km)	
	上 流 端	下 流 端		
木津川	左岸	伊賀市坂下字布引1063番地先	大内橋 (直轄上流端)	24.226
	右岸	同市同字1078番地の1地先		
服部川	左岸	伊賀市上阿波字蓑輪谷952番の1地先	服部橋 (直轄上流端)	22.332
	右岸	同市同字横尾1030番地先		
柘植川	左岸	伊賀市柘植町字馬場谷5091番の1地先 (山池からの流出点)	山神橋 (直轄上流端)	14.413
	右岸	同市同町同字5091番の2地先		

河川総数: 81河川 総管理延長: 249km

3.2 河川整備計画の対象期間

本河川整備計画の対象期間は、概ね30年間とする。

- なお、本計画は現時点の流域の社会状況、自然状況、河道状況に基づき策定されたものであり、今後の河川及び流域を取り巻く社会環境の変化などに合わせて適宜見直しを行っていく。

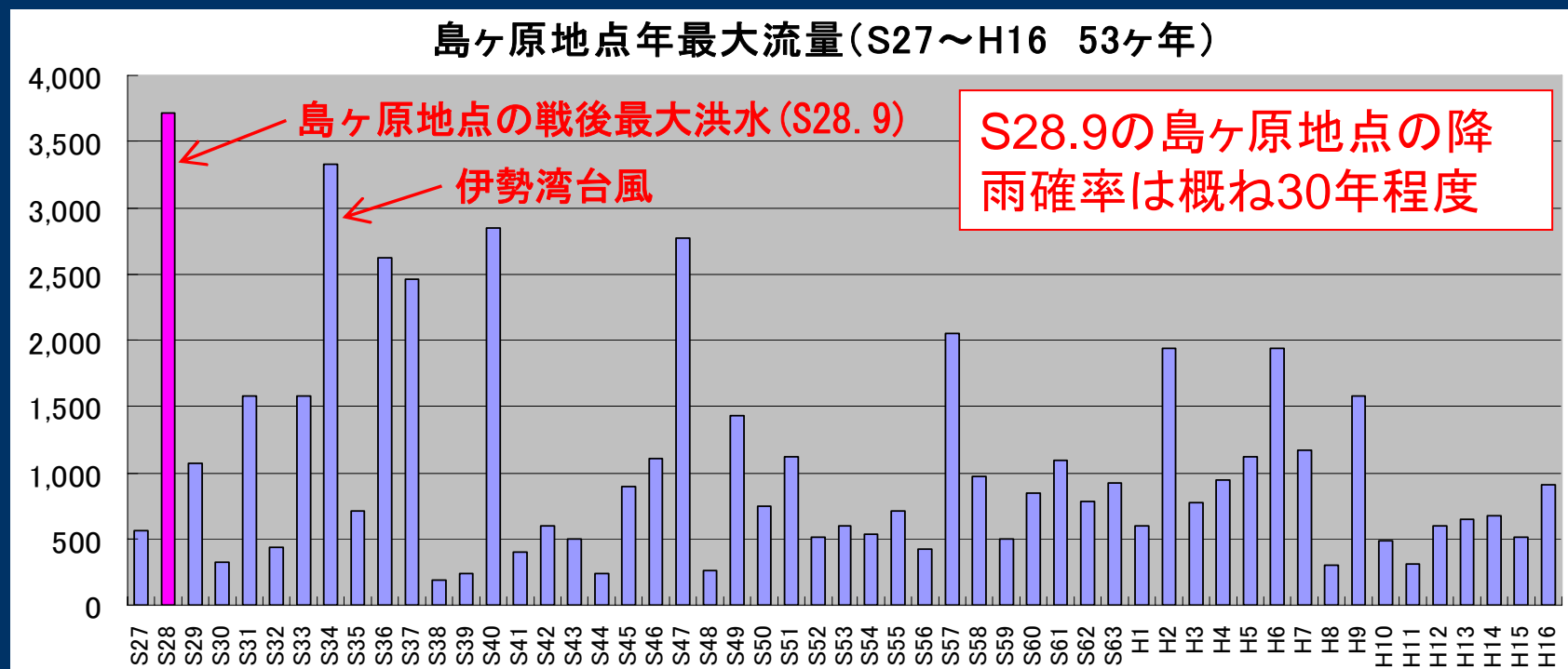
3.3河川整備計画の目標

➤整備計画目標設定の観点

- 下流直轄管理区間との計画規模の整合
- 県内他河川との整合



直轄区間の整備計画目標＝昭和28年9月洪水



3.3河川整備計画の目標

●県内の流域面積、資産規模が同等の河川の既定整備計画は20～30年を目標としている。

	木津川	員弁川	安濃川	船津川	相川
流域面積(km ²)	176.3	266	111	76	24
資産額(億円)	約460	約3600	約2080	約440	約350
目標規模(年)		30	20	30	20



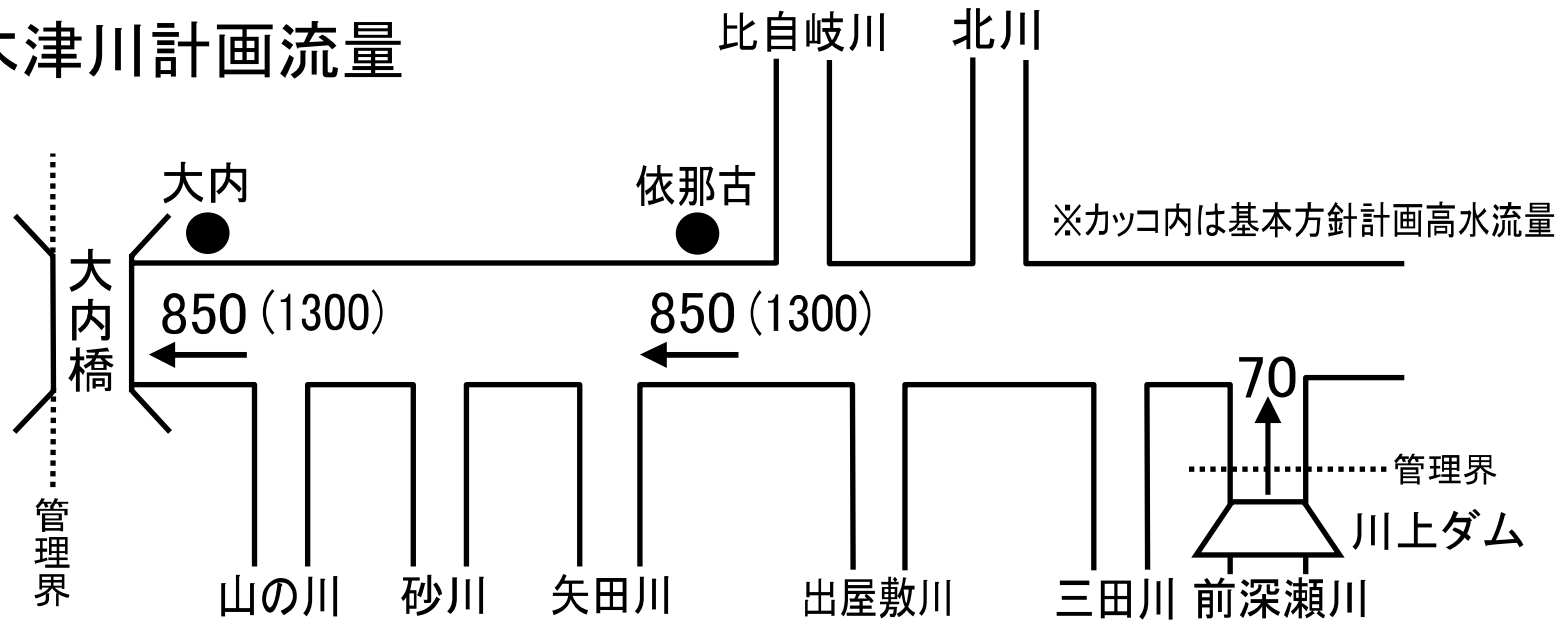
➤木津川(県管理区間)の整備目標規模の設定

整備目標は、昭和28年9月洪水(概ね30年確率)とする

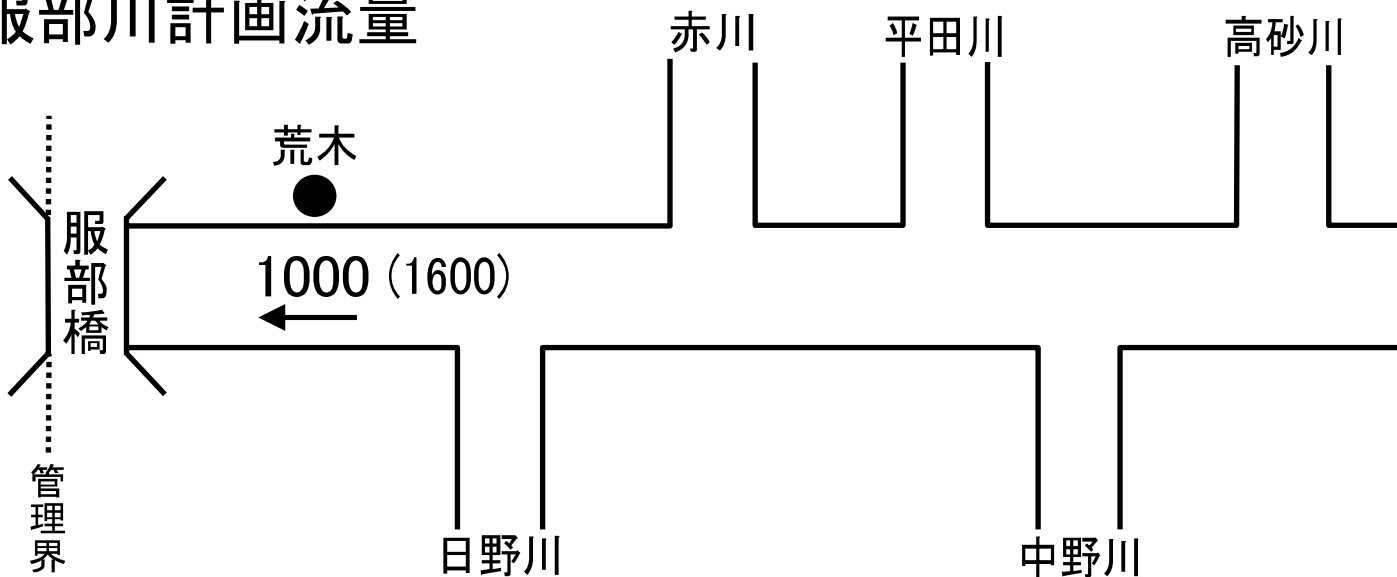
- ・下流の国管理区間と整合した整備目標
- ・県内の同規模他河川の整備計画目標と整合している

3.3河川整備計画の目標

木津川計画流量



服部川計画流量



3.4 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

関係機関と連携のもと、水利使用の合理化、情報提供などにより、適切な水利用が図られるよう努める、良好な水環境が維持、改善されることを目標とする。

流水の正常な機能を維持するための流量については、現在多数の農業用水が許可水利、慣行水利として設定され、その取水還元機構が明確でないなどの課題があるが、上流部に建設が計画されている川上ダムによる流況調節が行なわれることから、必要な流量が確保されるよう、関係機関との連携を図る。

3.5 河川工事の施工の場所と主な工事内容

- 河川整備計画で対象とする河川工事の施工箇所は、河道流下能力が不足している区間のうち、沿川の土地利用状況や浸水被害の状況を考慮して設定する。

河川名	工事区間	主な工事内容
木津川	県管理区間下流端から前深瀬川合流点 (62.2k地点付近～73.6k地点付近)	堰改築、築堤、護岸工、 河道拡幅、河床掘削、樹木伐採 等
服部川	西明寺井堰付近から上野頭首工下流 (5.2k地点付近～6.2k地点付近)	管理者による堰撤去、築堤 護岸工、河道拡幅、 河床掘削 等

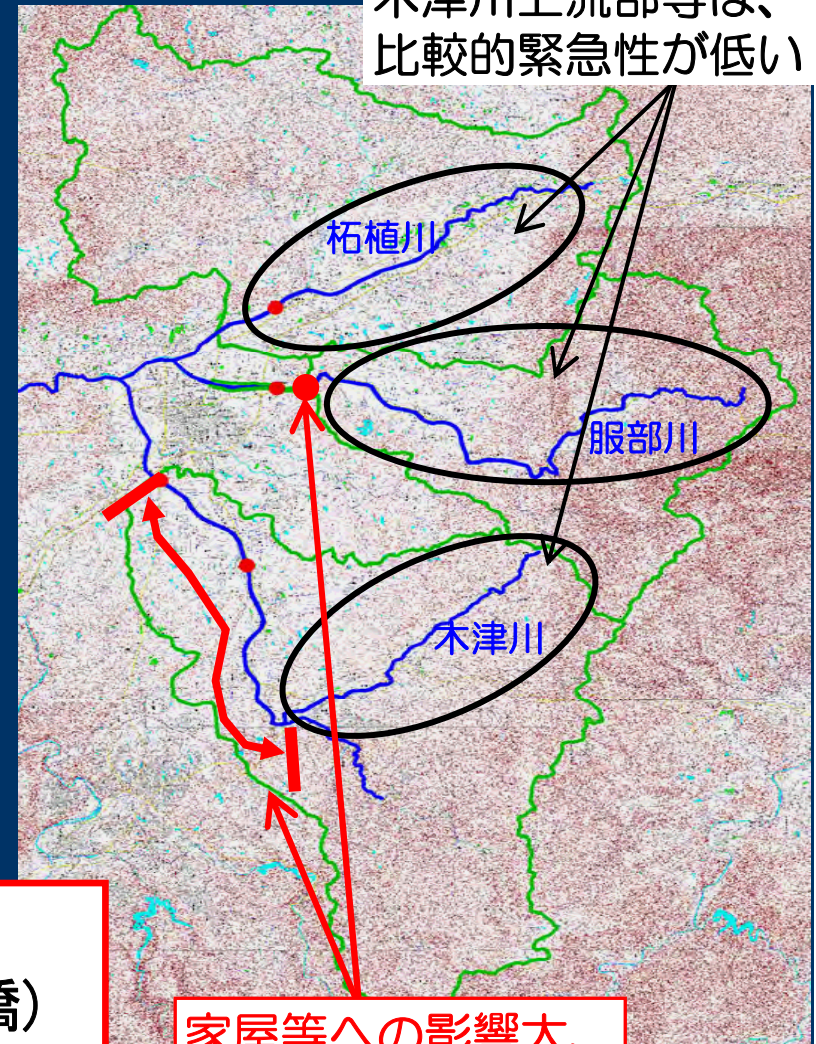
特に整備を優先する区間の設定について

- 木津川本川（大内橋～新羽橋付近）で流下能力不足区間が連続している。
- 木津川本川では、浸水被害が頻発している。（69km付近）
- 支川および木津川上流部の流下能力不足箇所は局所的であり、かつ背後地の状況から甚大な家屋資産被害は発生していない。
- その他、木津川の主要支川は危険箇所の整備がおおむね完了している。



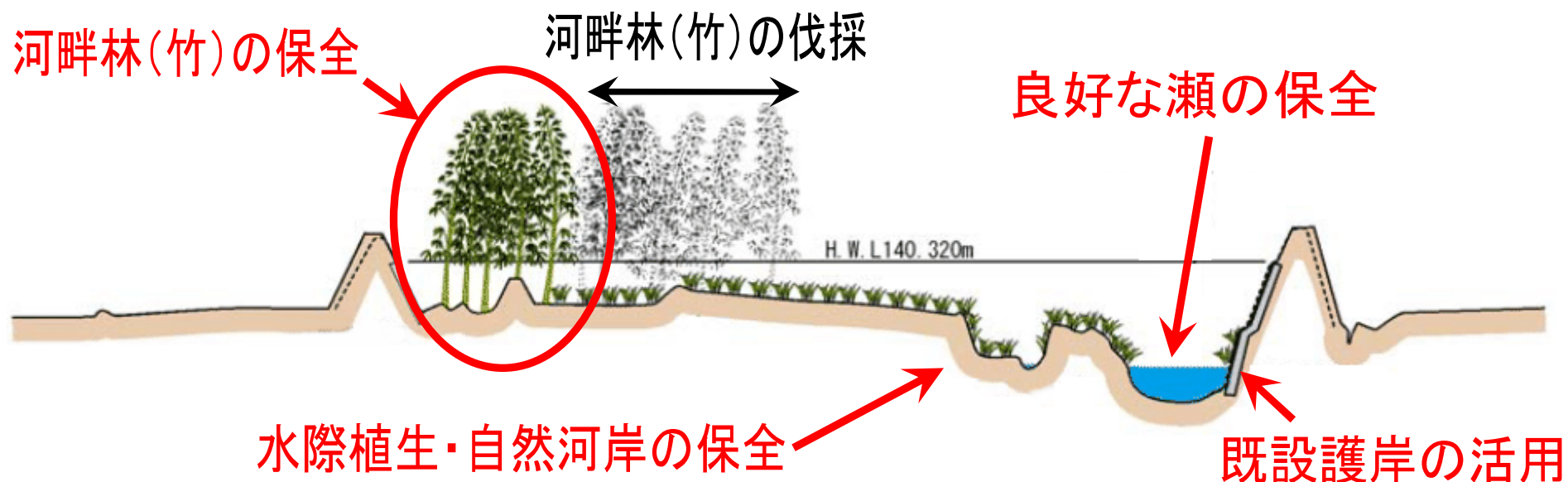
— 計画的に優先整備する区間 —
木津川 62. 2k (大内橋) ~ 73. 6k (新羽根橋)
服部川 5. 2k ~ 6. 2k

木津川上流部等は、
比較的緊急性が低い



家屋等への影響大、
近年被災実績あり

河川整備のイメージ図(木津川63.2k付近)

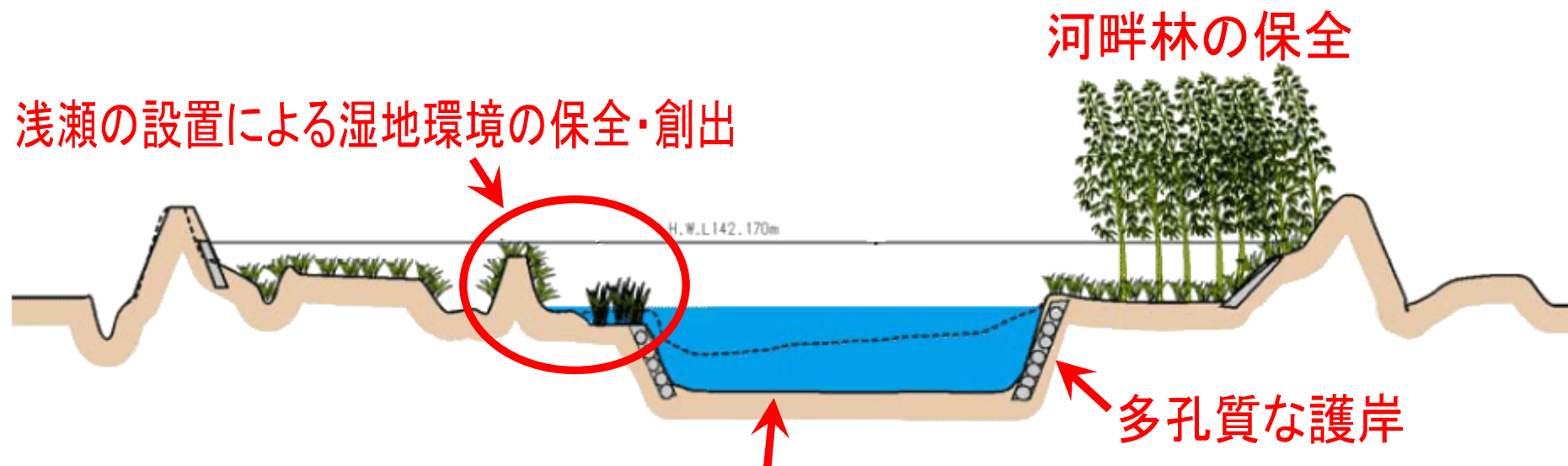


・ 瀬は、アユ、カジカ等の魚類、鳥類の採餌場となっており、現状のみお筋を極力保全し、やむなく切り下げ
る場合には掘削形状を工夫する。



・ 河道内樹木群は、河積阻害および河川管理上の障害となる反面、鳥類、昆虫類、小動物の生息環境となっており、伐採は必要な範囲にとどめる。特にエノキ・ムクノキ群落は、オオムラサキの生息場になっているなど、竹林主体の木津川においては、重要な樹木群であることから保全に努める。

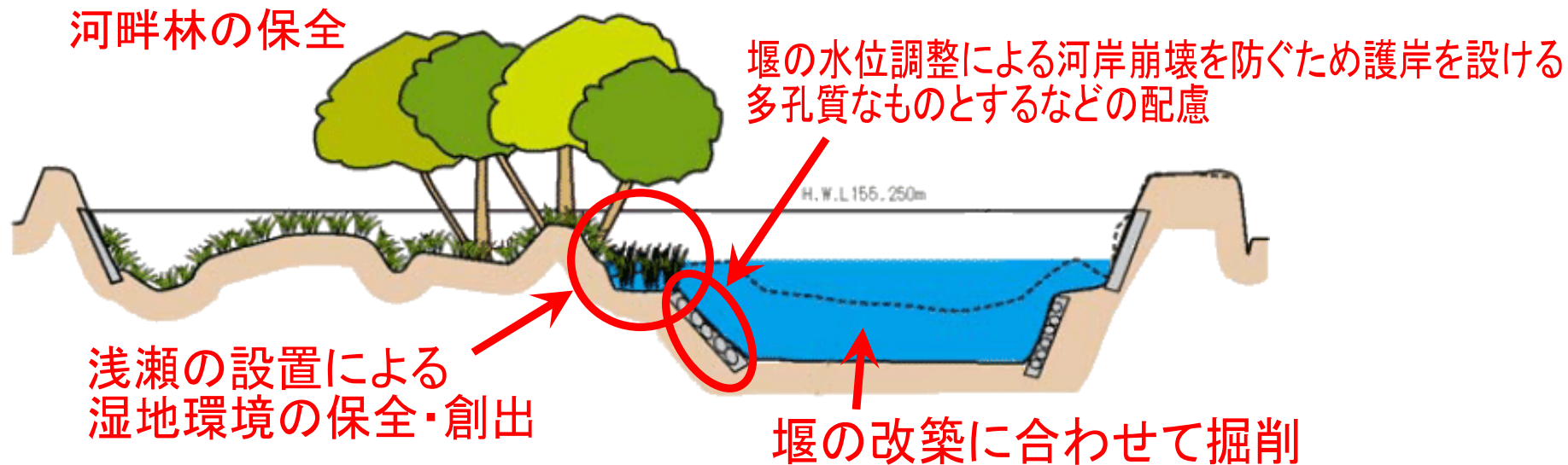
河川整備のイメージ図(木津川64.0k付近)



単調な断面形とならないよう、堰の湛水域に合わせた掘削をおこなう

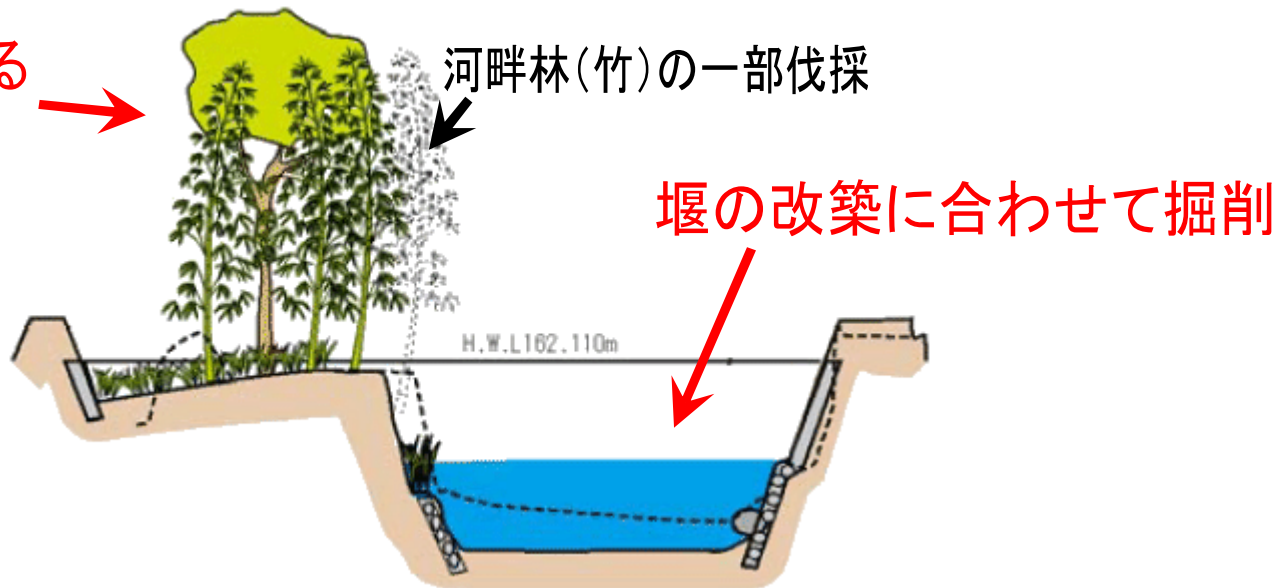
- ・水際に生育する湿性植物群落は、オオヨシキリやセッカなどの生息、繁殖の場となっている他、メダカなど小型魚類や小動物の生息環境であり、できる限り保全に努め、改変する場合には、水域から陸域への移行部の創出などを行う。
- ・堰湛水区間は、水際が単調化しないよう、河岸の緩傾斜化や湿地環境の創出により水際植生の保全・回復に努める。
- ・ドジョウ、フナ、ナマズなど水田と本川を行き来する魚類の生態様式に配慮し、流入支川や小水路と本川との連続性の確保に留意する。

河川整備のイメージ図(木津川68.4k付近)

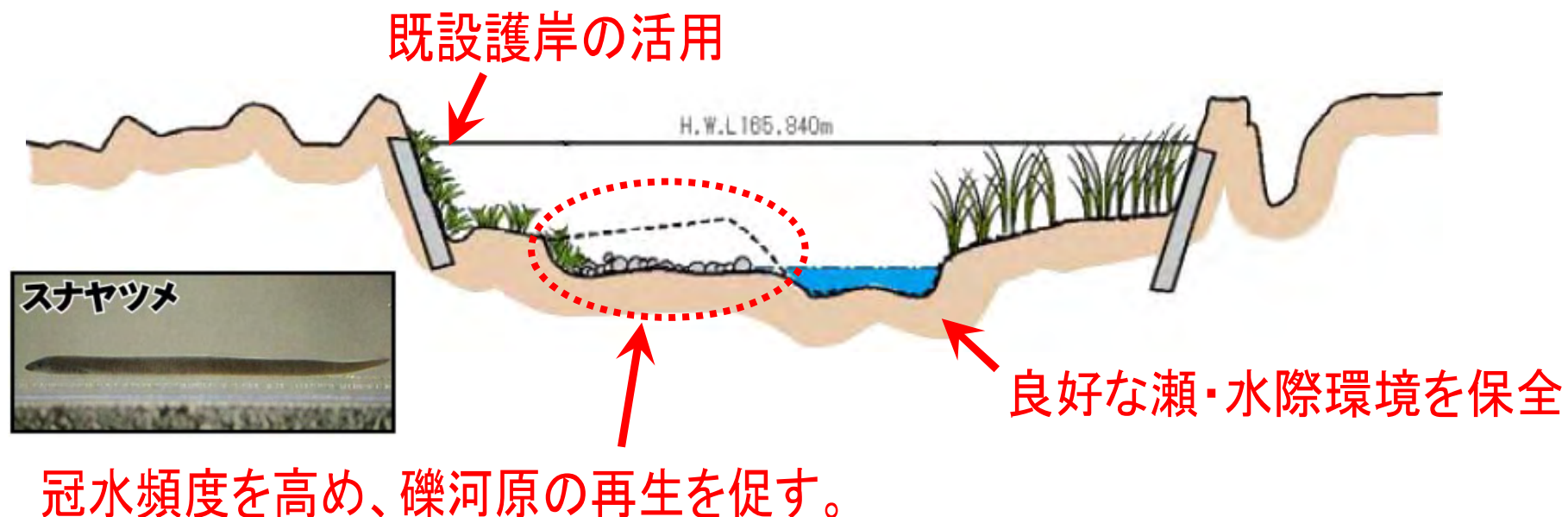


河川整備のイメージ図(木津川71.4k付近)

サギのコロニーとなっている
河畔林を極力保全



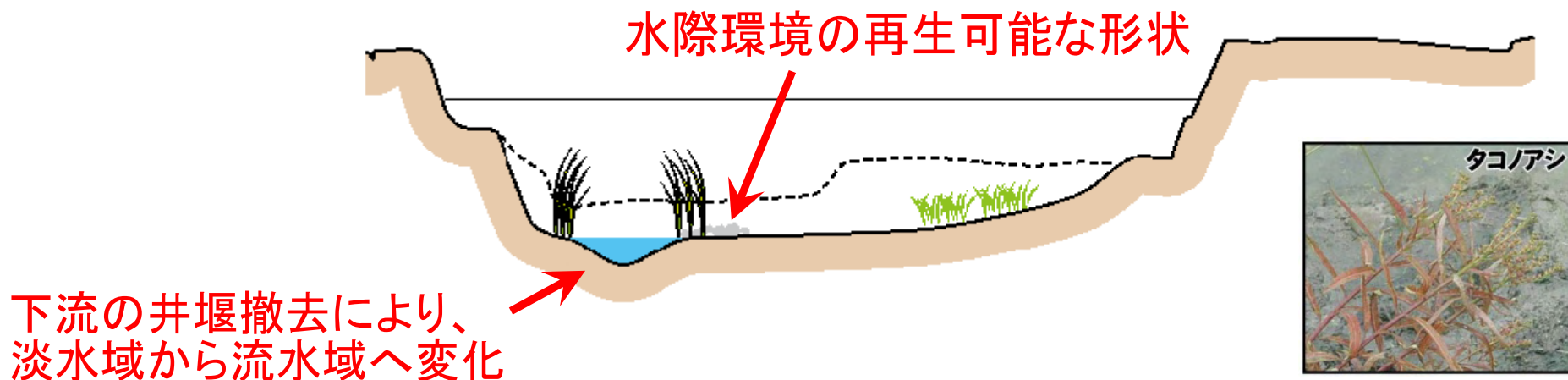
河川整備のイメージ図(木津川71.4k付近)



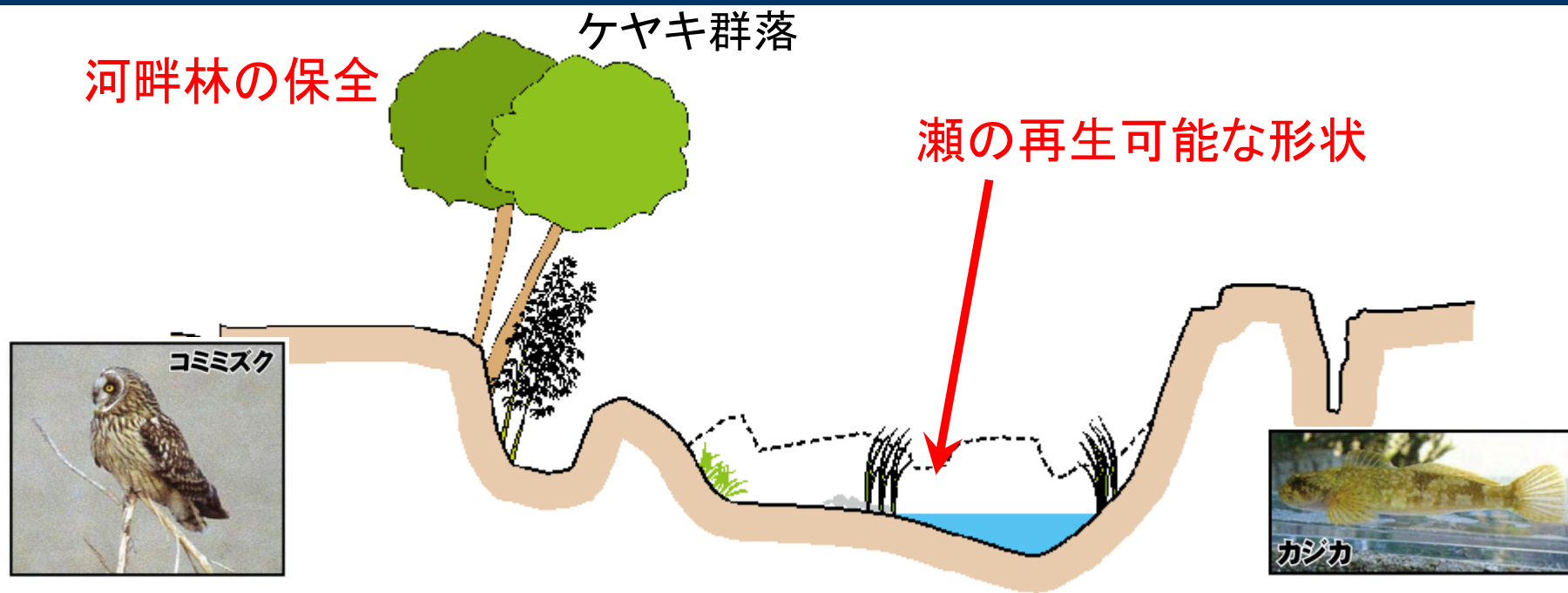
・植生の少ない礫河原環境が一部に見られ、鳥類などの繁殖環境となっている可能性があることから、河床掘削に際しては、洪水時に適度な攪乱を受けるとするなど保全・再生に努める。



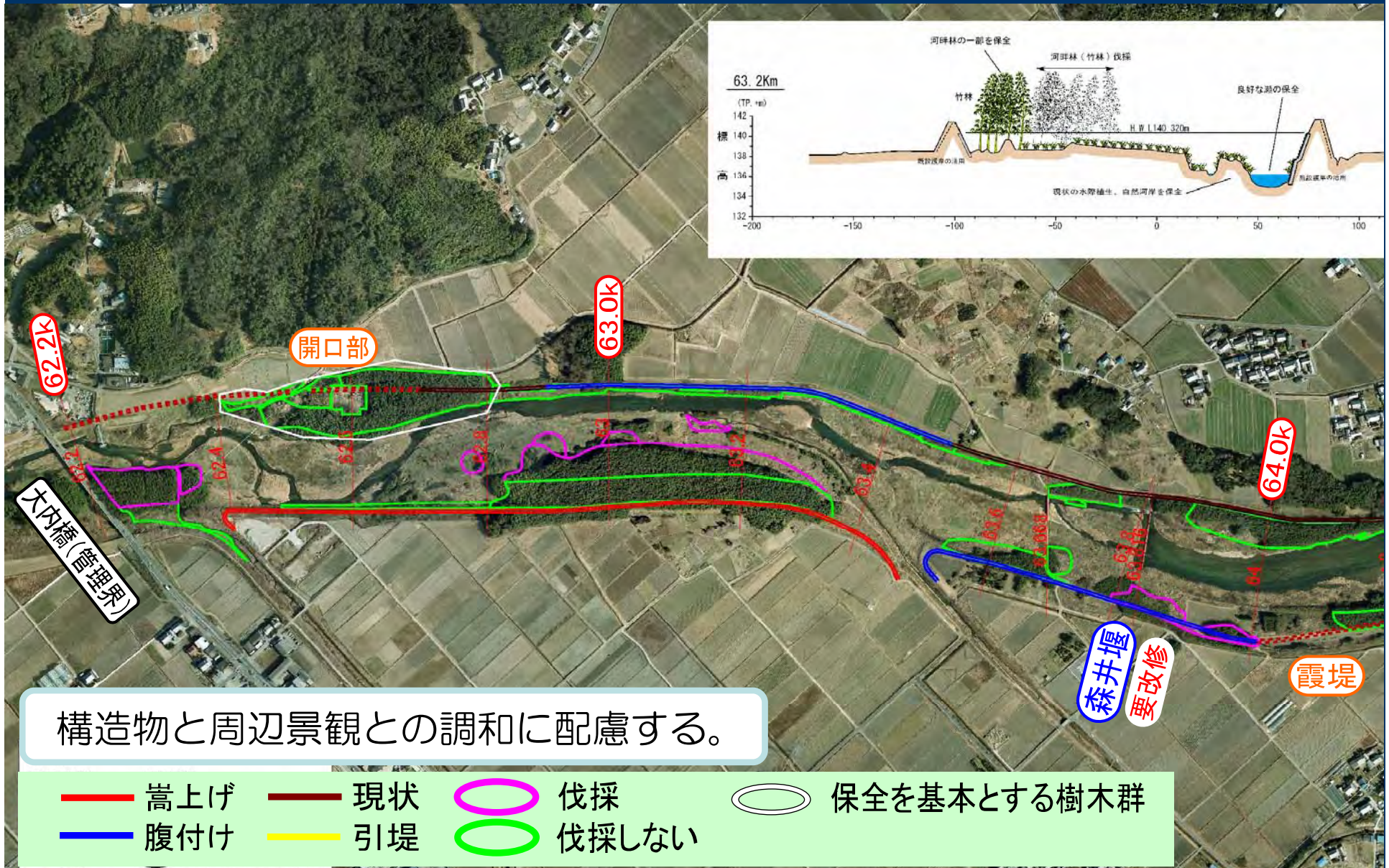
河川整備のイメージ図(服部川5.4k付近)



河川整備のイメージ図(服部川6.2k付近)



木津川改修平面・横断図



構造物と周辺景観との調和に配慮する。

- 嵩上げ
- 現状
- 伐採
- 保全を基本とする樹木群
- 腹付け
- 引堤
- 伐採しない

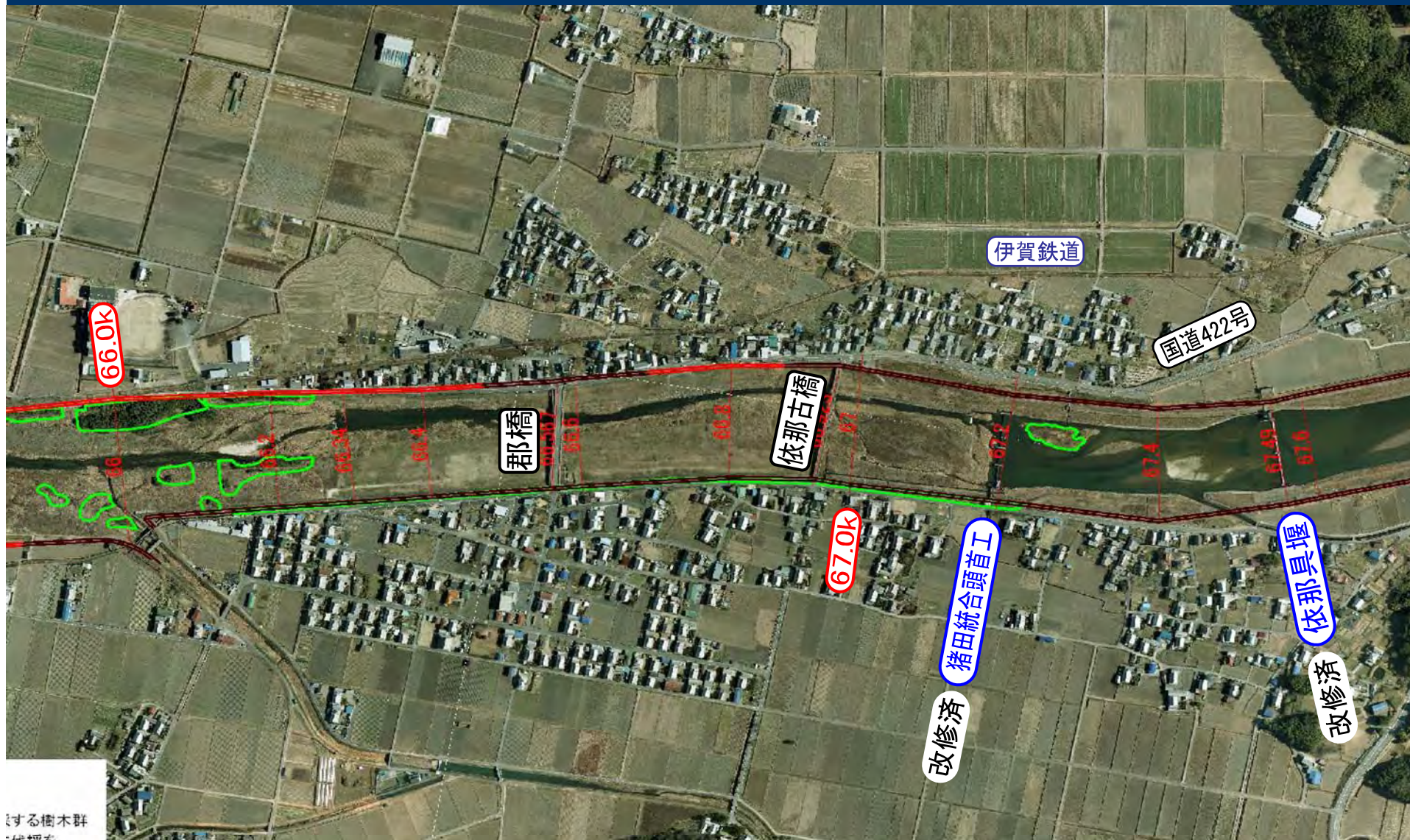
木津川改修平面・横断図





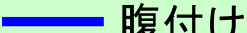




工事実施の際には、広範囲を一度に改変しないなどの配慮を行い、植生の回復を促し、動植物の生息環境に与える影響を最小限にとどめる。

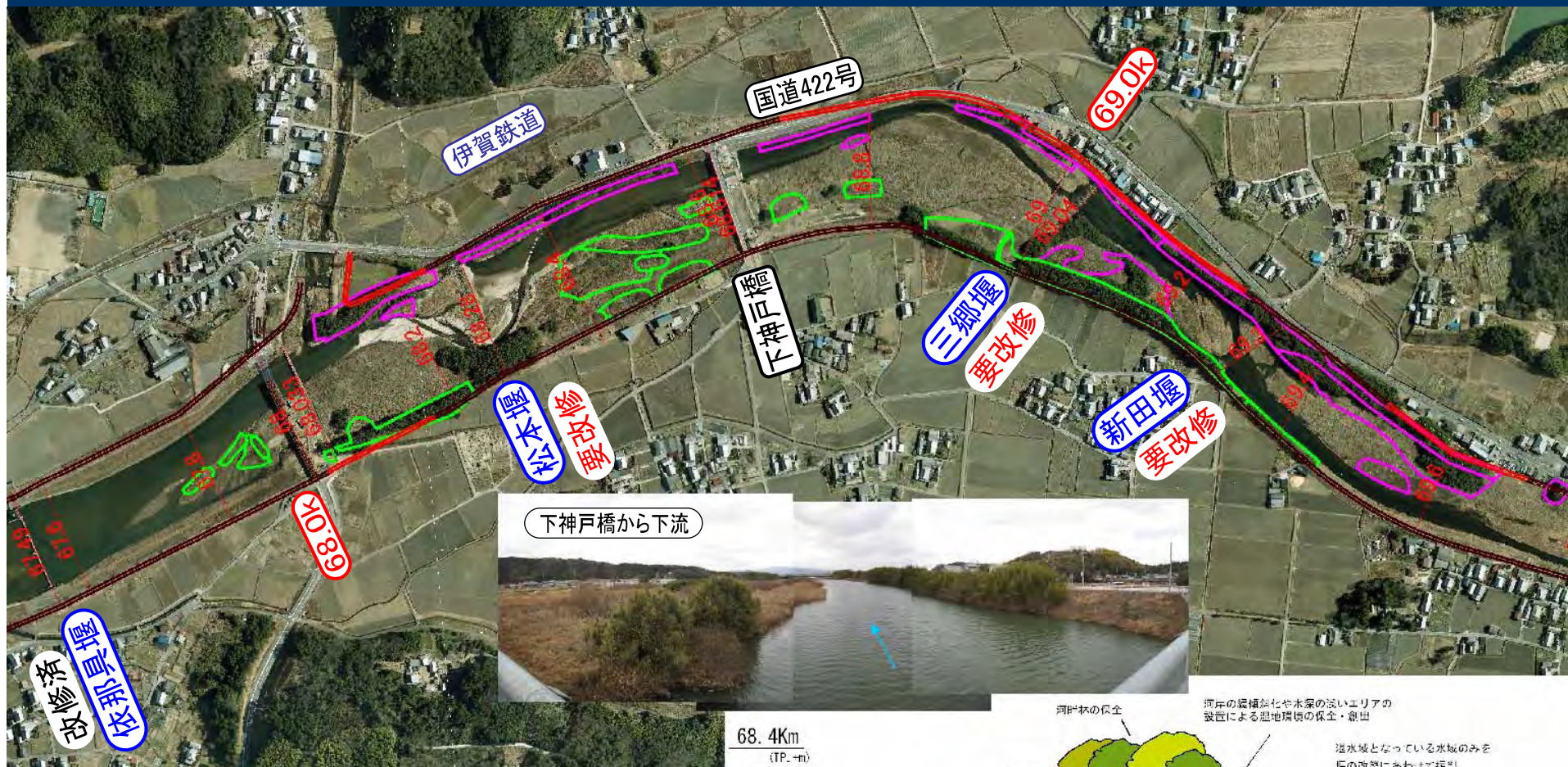
- 嵩上げ
- 現状
- 伐採
- 保全を基本とする樹木群
- 腹付け
- 引堤
- 伐採しない

木津川改修平面図

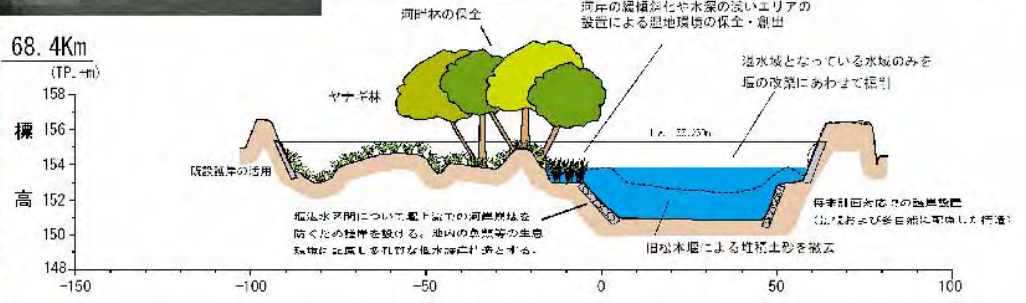


- | | | | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  嵩上げ |  現状 |  伐採 |  保全を基本とする樹木群 |
|  腹付け |  引堤 |  伐採しない | |

木津川改修平面・横断図

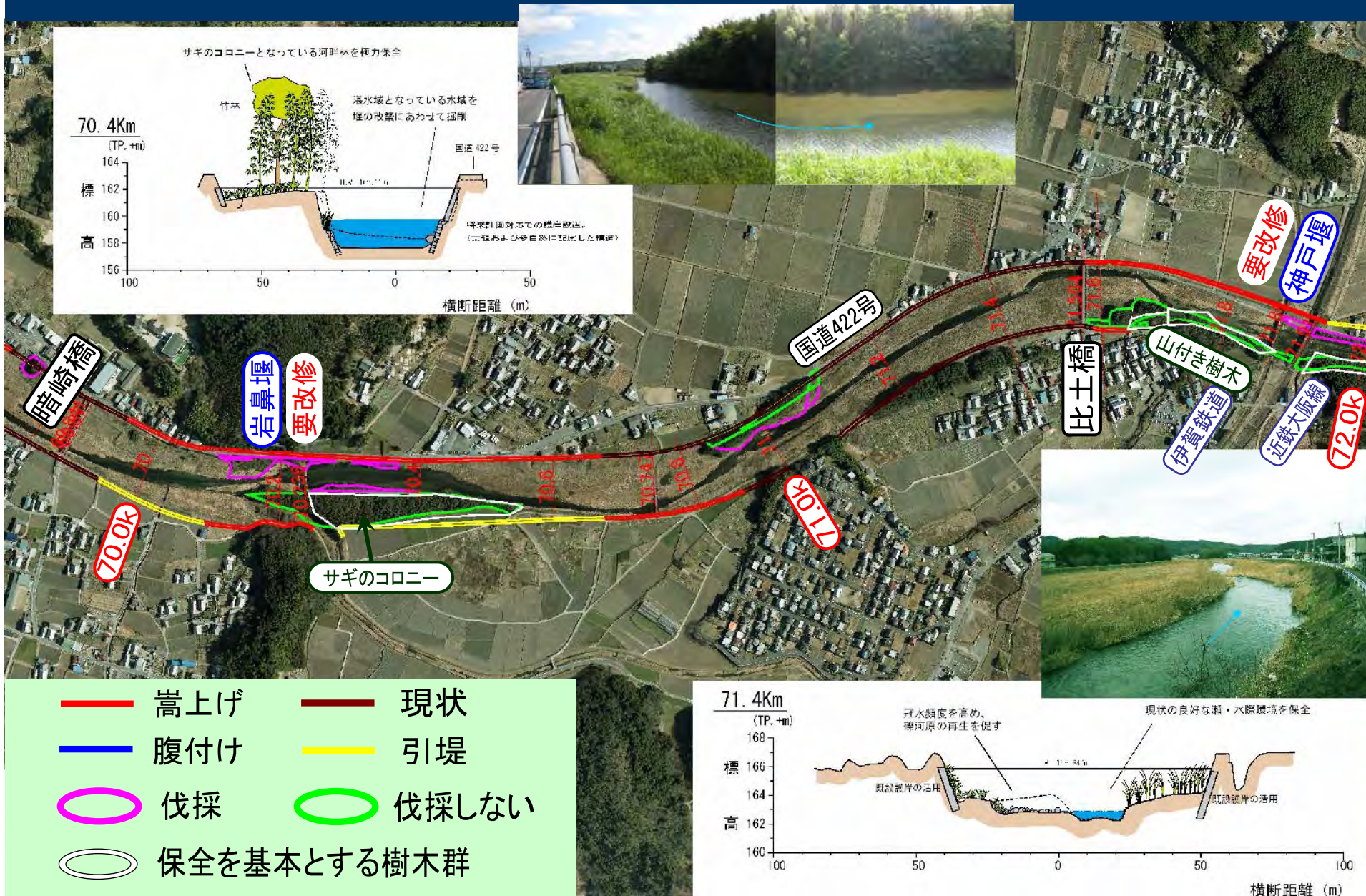


堰の改築にあたっては、魚類等の移動の支障を減少させるため、魚道の整備を行う。

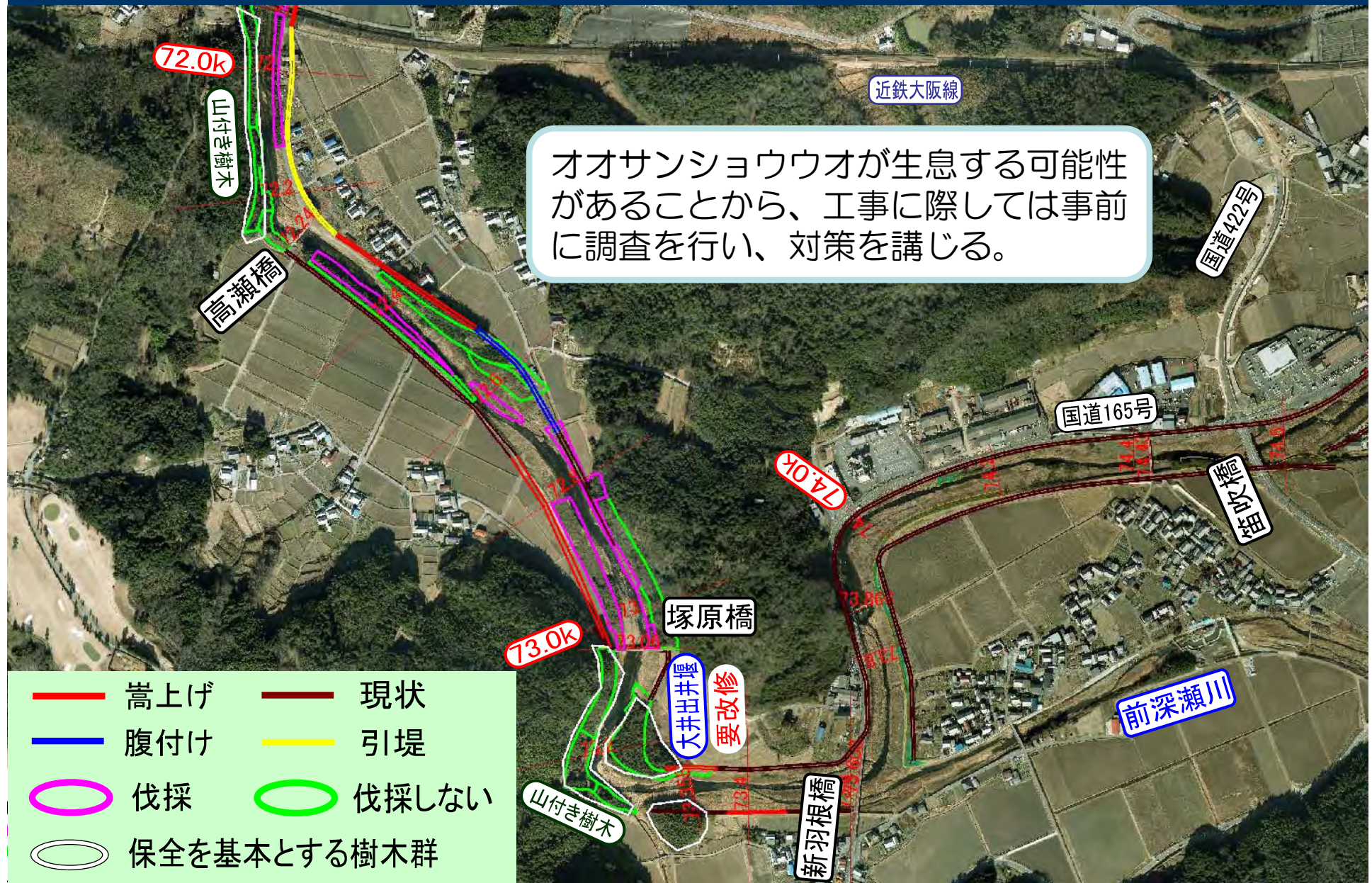


- 嵩上げ
- 現状
- 伐採
- 保全を基本とする樹木群
- 腹付け
- 引堤
- 伐採しない

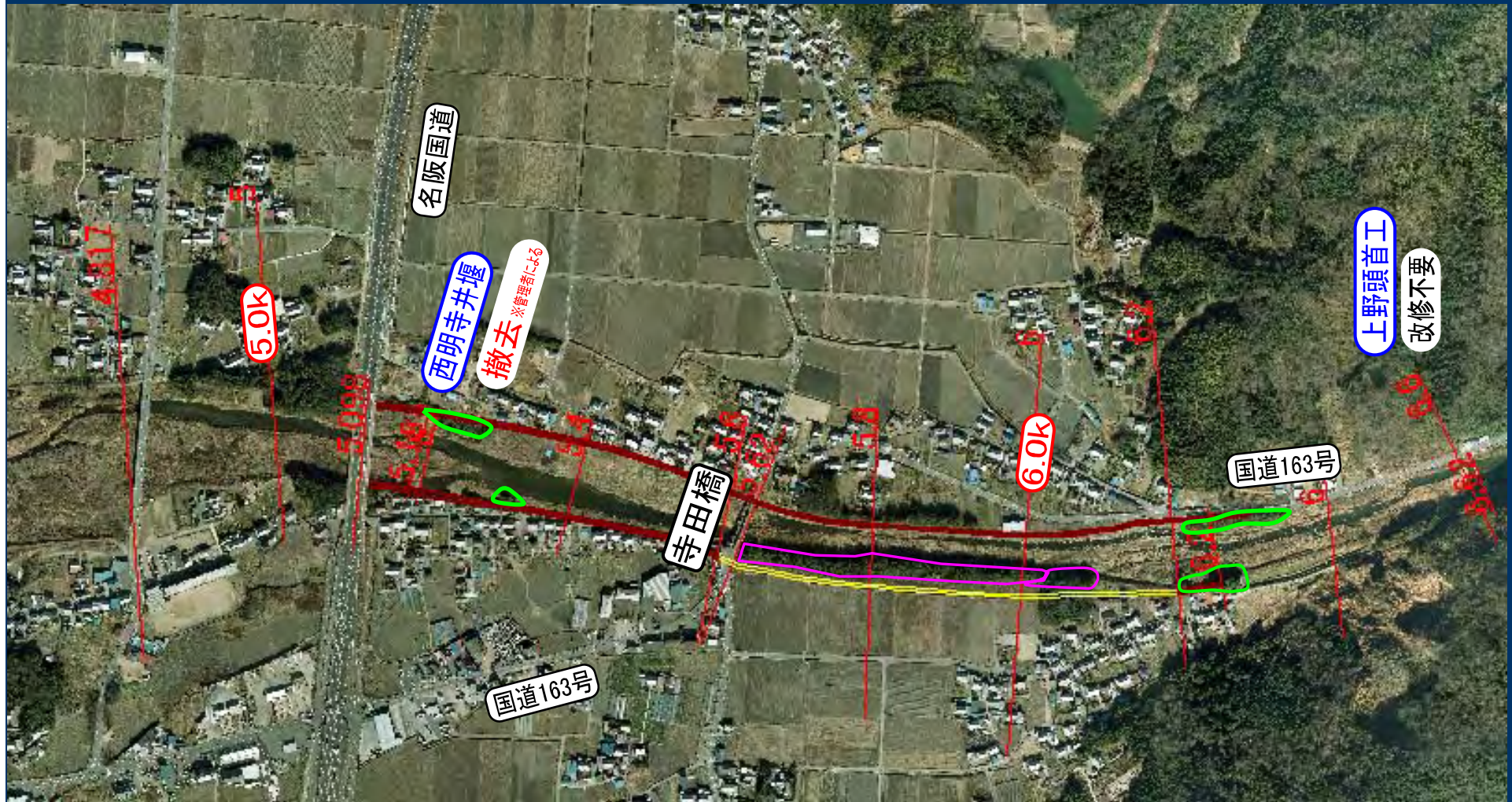
木津川改修平面・横断図




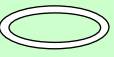





木津川改修平面図



服部川改修平面図



- | | | | | | | | |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-----|-------------------------------------------------------------------------------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------|-------|---------------------------------------------------------------------------------------|-------------|
|  | 嵩上げ |  | 現状 |  | 伐採 |  | 保全を基本とする樹木群 |
|  | 腹付け |  | 引堤 |  | 伐採しない | | |

3.5 河川の維持管理

災害発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持および河川環境の整備と保全の観点から、河川の有する多面的な機能が十分に発揮されるよう、関係機関や地域住民と連携しながら適切に行う。

河道および河川管理施設の維持

河川巡視・定期点検 自然環境への配慮、
地域住民との連携、除草等の日常管理

河道内樹木の管理

河積確保、自然環境への配慮

水量の監視等

水位・雨量の監視、地域への情報提供
関係機関との連携・協力、情報伝達体制の整備

水質の監視・保全

関係機関との連携、環境基準点での水質観測
関係機関および地域住民との協働

3.6 その他必要な事項

整備途上段階および超過洪水対策

河川水位情報の提供・周知

情報伝達及び警戒避難体制の整備

防災訓練等による防災意識向上や水防活動の充実

流域市町等関係機関や地域住民と連携・協働

河川情報の提供、流域における取り組みへの支援等

地域に対する河川に関する各種情報の提供

地域住民との情報交換

地域住民との「協働」による川づくり

4. 今後の進め方

■今後の進め方

第1回 流域委員会（平成21年3月24日）
・ 流域の概要

第2回 流域委員会（平成21年6月2日）
・ 現地視察

第1回 流域懇談会（平成21年8月28日）
・ 関係住民の意見聴取

第3回 流域委員会（平成21年11月）
・ 流域の現状と課題 ・ 治水計画について

第2回 流域懇談会（平成22年1月28日）
・ 関係住民の意見聴取

今回開催

第4回 流域委員会（平成22年2月15日）

関係機関協議・関係市長 意見聴取

策 定